

第 1 回小学校給食・食育推進委員会 議事要旨

1. 推進委員会（第 1 回）の概要

- (1) 開催日時：平成28年8月8日（月）10：00～12：00
- (2) 開催場所：神戸市役所4号館（危機管理センター）1階本部員会議室
- (3) 出席者：西村、池田、湯田、安東、西川、川本、宮地、谷、市原、川田、馳川、寺西、松原各委員、大西オブザーバー

2. 議事要旨

開催要綱に基づき、川田指導部長が座長となることを事務局より説明し、その後、座長の進行により、各委員に意見をいただいた。

意見交換終了後には、今後の進め方について、第 2 回は学校給食及び給食費の実態について忌憚のない意見を伺うため非公開とする旨を事務局より提案し、全出席委員の承諾を得た。

主な意見は次のとおり。

<小学校給食の現状や食育推進の取り組みへの質問>

- ・「資料 5」の 2 ページで副食の単価が厳しくなっているが、28年度は27年度よりも、変わりごはんやブレンドパン、デザート等の提供回数が減るかもしれないのか。
- ・給食の量が減っているのか、それとも質的な部分で工夫しているのか。
(事務局) 給食の量を減らすことはなく、使用する食材の種類や部位の変更等、工夫をし、栄養価を確保している。
- ・神戸の小学校給食は文部科学省の「学校給食摂取基準」をどのくらいの期間、満たしていないのか。
(事務局) 鉄と食物繊維は 1 食での確保が難しいが、その他の項目は27年度になって確保できなくなってきた。
- ・給食会計は、私会計なのか、公会計なのか、繰越金のような制度はあるのか。
(事務局) 給食会計は私会計で、一定の積み立てにより急な価格変動に対応している。
- ・給食費の考え方について、①物価スライドや消費税率に連動するしくみや、②困窮者対応といった 1 つの方針に基づいて行っているのか。
(事務局) 過去の給食費改定は 1 つの方針に基づき行ってきたのではなく、そのときの状況を判断し、行っている。
- ・物価の下落や食材を安く調達できる状況になれば、給食費を下げるなど、環境に柔軟に対応しているのか。
(事務局) 給食費を毎年見直すものとは考えていないが、食材費が大きく下がった場合は、それをふまえて検討していきたい。

<意見交換>

◆給食費の改定

- ・献立の工夫はわかるが、最低限のお金をかけないとみんなが満足する給食は難しい。お

楽しみのデザートも減ってきており、神戸の小学校給食の思い出を語れる状況が減るなど、今のままでは子どもたちがかわいそう。前向きに給食費の検討が必要。

- ・仮に19年度の量まで戻すなら、相当な値上げが必要。本来なら、毎年でなくても消費税が上がった時に給食費を上げるべきだったのではないか。
- ・給食は学校の楽しみということもあるのに、19年度から27年度で大幅に量が減っており、神戸の給食の嘆かわしい状況がわかる。保護者としては給食費を上げてでも充実した給食を子供たちに提供してほしい。
- ・食材費が上がるのが目に見える状況で、給食費を上げない限りは現状を打破できないが、具体的にどのくらい費用がかかり、どれくらい給食費を上げるのか、まず金額を示してもらったうえで検討していく必要がある。

(事務局) 第3回で給食費改定について検討をする予定。どのように給食内容を充実していくのか、本日の会議で頂戴したご意見を踏まえたうえで、改定(案)やその根拠をお示ししたい。

- ・自分の子供に聞くと、デザートを増やしてほしいという切実な願いがあった。来年度に向けて給食費を改定して給食を充実することも大切だが、今の子供のために、別の財源から補助するなどして今年度途中からでも給食を充実できないか。

(事務局) 学校給食法上、食材費は保護者の負担となっており、別の財源を用意することは現状では難しい。ただ、今年度厳しい状況ではあるが献立のなかでいろいろと工夫していきたい。

- ・国際都市神戸で現状の給食はどうかと思う。今後世界に羽ばたいて活躍していく子どもたちのためにも残念な給食の思い出は与えたくない。食育の大切さを思えば、給食費を上げることを早期に実現していきたい。
- ・献立の作成自体がかなり厳しい状況というのは給食運営委員会でも毎回出ており、そろそろ給食費を見直す時期にきていると思う。
- ・いただきますやごちそうさまのあいさつも日本の大切な文化であり、子供がその意味を考え、食べられることに感謝できる人に成長してほしい。食育は大切な授業であり、食育に必要な給食を充実させるためには給食費の増もあり。
- ・給食費の検討にあたっては、19年の値上げ時の議論も一度検証しておく必要がある。それが何年先までもつのか、給食費を運営していく目安がたてば、いろいろ検討することで、献立作成に苦勞することなく、子供たちにも喜んでもらえる給食が提供できるのではないか。

- ・給食費の改定にあたっては、この委員会で指針を決めるのか、また違う委員会を設置して決めるのか。一部公金を使っているのだから、この委員会ですら外部監査などをした方がよい。また、他の都道府県等の状況、またその際のメリット、デメリットを調べてほしい。値上げをしても保護者に納得してもらえるよう、これらをセットにしてPDCAサイクルをまわし、ガバナンスを効かせ、説明責任を果たしていくことが必要。

(事務局) この委員会は「有識者会議」として教育委員会が諮問し、この会の意見をふまえて、教育委員会として決定していく。

給食費は私会計で、保護者の給食費から食材費を支払うため、就学援助を除き食材費には一切公的資金は入っていない。

他都市の状況を確認し、次回以降にご説明させていただく。

- ・スポーツ教育協会では食材の調達と給食費の管理をしている。給食費が徴収できないと食材費が払えないので、給食費が遅れて入金された場合や食材価格の変動に対応するためには予備的な部分も必要になる。また、年度を越えての資金不足の補てんはなかなか厳しいものがあり、その辺りもご議論いただきたい。
- ・特別支援学校では小、中、高等部で量が若干違うが同じ金額で給食を食べているので、別途検討が必要かと感じている。

◆給食内容や食材の充実

- ・大規模校では給食にかけられる時間が少なく、配膳係の子供はかけこんで食べるなど、給食自体をおいしく食べられていない状況があるので、せめて食材は充実して楽しんで食べられる給食にしてほしい。
- ・献立の作成には相当努力されているが、栄養を満たすことが最優先で、食の豊かさや心の豊かさのところが少し残念な状況になっている。給食は子供が見て食べて楽しんで話も弾んでほっとする時間で、季節料理や郷土料理を通じて食育にもつながるので、何とかしたいという思いは学校現場ももっている。
- ・「給食の内容の充実と給食の安全を考えてほしい」という意見が保護者からあり、食の安全という面からも、より安価な食材を求めることについて考える必要がある。
- ・様々な状況下で朝食を食べておらず、給食の栄養で体を維持している子も少なくない。給食で家庭では食べない料理を食べたという子供もいる。子どもたちが楽しみにしているデザートもしばらく見たことがない。1回の給食が食育につながる楽しい時間であり、体をつくるという栄養面でも充実したものにするのは大事なこと。値段的には献立作成で限界にきており、給食費の改定も視野に入れた検討も必要。
- ・献立の作成に携わっているが、27年度は変わりごはん、ブレンドパン、ふりかけ、ジャム、デザート等の回数を減らして対応したが、今年度はもうこれ以上減らせない状態になっている。
- ・限られた価格内で栄養価を確保しながら「主食・牛乳・主菜・副菜」をそろえるとなると、食材で工夫するしかないが、食材価格も高騰しており、献立の作成は非常に厳しくなっている。様々な給食の献立メニューがあるにもかかわらず、あまり出せていない。
- ・季節料理や郷土料理の食材の話などを伝えることで、子どもたちの食が進んでいくことが往々にしてあり、食育を進めるうえで給食はとても大事。また、楽しく思い出に残る給食にするためにも給食内容の充実はとても大切と思う。
- ・家庭との連携ということで、子供たちの朝食の喫食状況を把握した上で、昼の給食、そして夕食、一日の栄養をトータルで考えていく必要があるのかと思う。
- ・こんだて表を見て、給食と夜の献立が重ならないように活用しているし、行事のときは献立について家で子供に聞くようにしている。

◆特色のある給食

- ・給食には通常の給食とは別に、子供が全部ではないがおかずを選べるセレクト給食、複数の給食から事前に選ぶリザーブ給食、人気のものを卒業時に出すリクエスト給食、学

年や地域住民との交流給食などがあり、他都市では学期に1回や年に1回実施している。1食233円では何もできないので、いろいろしなくてもいいが何か特色のある給食ができるようもう少し余裕があればいい。

(事務局) 神戸市では、校外学習や学校行事などで給食が抜けた日分の給食費を保護者に返金せず、それを活かして特別給食として子どもたちに提供できるシステムがある。全市統一ではないが、条件が整った学校ではセレクト給食やバイキング給食をしている。来年入学してくる幼稚園児と5年生児童との交流給食や地域との交流給食をやっている学校もある。

- ・セレクト給食などを全市的に実施するとどれくらいの費用になるか一度割り出していきたい。

◆給食のあり方の検討

- ・給食費と食育のバランスを意識した検討が必要だと認識している。給食費233円ありきではなく、必要なものは必要なものとして訴えいくべきではないか。何年かに一度見直すなり、あり方が妥当なのかの検討をするなどのシステムを検討していくべきではないか。

(事務局) 給食についてはこれまでその時々状況に応じて検討してきたが、今後は何年かに一度、給食のあり方と費用について定期的に検討するシステムを導入するのについてもこの会でご検討いただきたい。